

平成 26 年度 第 2 四半期（上半期）報告 説明資料

朝日生命保険相互会社

当社は、平成 24 年 4 月より中期経営計画「Action（3 カ年計画）」をスタートし、特徴的な商品・サービスの展開やチャネル面での対応強化等、様々な取組みを行っております。

平成 24 年に発売した介護保険「あんしん介護」や引受基準緩和型医療保険「かなえる医療保険」は、引き続き多くのお客様にご好評を頂いており、今年度も、10 月に、引受基準緩和型死亡保障商品として「かなえる終身保険」「かなえる定期保険」を発売するなど、幅広いお客様のニーズにお応えする商品展開を進めております。

また、代理店事業においては、伊藤忠商事と共同で設立したマーケティング会社を通じたマーケット開発・推進や代理店チャネル専用商品「スマイルシリーズ」などが寄与し、今年度も、順調に業容は拡大しております。

こうした取組みにより、平成 26 年度第 2 四半期（上半期）報告においても、新契約業績は、当社の注力する第三分野を中心に伸展するとともに、収支・財務面とも総じて堅調に推移しております。

今年度は中期経営計画「Action（3 カ年計画）」の最終年度であり、死亡保障と医療保障・介護保障等の第三分野の合計である保障性商品の保有契約（年換算保険料）反転を通じ、安定したフロー収益の確保と自己資本の拡充を図ってまいります。

1. 業績の状況

(1) 新契約

平成 26 年度上半期の新契約年換算保険料（新契約＋転換純増加）は、前年同期比 101.3%となりました。「第三分野部分」については、前年同期比 107.1%と伸展しました。

個人保険・個人年金保険の新契約（新契約＋転換純増加）の状況

区分	平成 26 年度上半期		平成 25 年度上半期
		前年同期比	
新契約年換算保険料 （新契約＋転換純増加）	114 億円	101.3%	113 億円
うち新契約（新規契約）	92 億円	106.5%	87 億円
うち転換純増加	21 億円	83.9%	26 億円
うち第三分野部分	77 億円	107.1%	72 億円

(2) 消滅契約

平成 26 年度上半期の消滅契約年換算保険料（死亡・満期等を除く）は、前年同期比 93.7%となりました。

個人保険・個人年金保険の消滅契約の状況

区分	平成 26 年度上半期		平成 25 年度上半期
		前年同期比	
消滅契約年換算保険料 （解約＋失効＋減額－復活）	116 億円	93.7%	124 億円
うち解約・失効契約	104 億円	94.3%	111 億円
消滅率（解約＋失効＋減額－復活）	2.11%	△0.09%	2.20%

(3) ご契約の継続率

ご契約の 7 月目・13 月目・25 月目継続率は、いずれも高水準を維持しています。

ご契約の継続率の状況

区分	平成 26 年度上半期		平成 25 年度上半期
		対前年同期増減	
7 月目継続率	96.4%	△0.1%	96.5%
13 月目継続率	93.6%	+0.5%	93.1%
25 月目継続率	86.9%	+0.7%	86.3%

(4) 保有契約

保有契約は、前年度末比 98.9%となりましたが、「第三分野部分」については、前年度末比 100.8%となりました。

なお、「第三分野部分」の保有契約全体に占める割合は、前年度末に比べ、0.6 ポイント上昇し、31.4%となりました。

個人保険・個人年金保険の保有契約の状況

区分	平成 26 年度上半期末		平成 25 年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	5,463 億円	98.9%	5,524 億円
うち第三分野部分	1,715 億円	100.8%	1,702 億円
構成比	31.4%	+0.6%	30.8%

- (注) 1. 全て年換算保険料ベースで記載しています。
新契約、消滅契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料については下記のとおりです。
- ・年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
 - ・「第三分野部分」とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。
2. 「消滅契約」（死亡・満期等を除く）とは、解約・失効、減額、復活（失効から控除）を集計しています。本文中の消滅契約は全て同じ定義として使用しています。
3. 消滅率は対年度始保有契約年換算保険料で算出しています。その前年同期比欄は、対前年同期増減を表示しています。
4. 7月目・13月目・25月目継続率は平成26年4月から平成26年9月に判明した継続率の累計値を表示しています。（7月目継続率の対象は平成25年7月から平成25年12月に募集した契約、13月目継続率の対象は平成25年1月から平成25年6月に募集した契約、25月目継続率の対象は平成24年1月から平成24年6月に募集した契約です。）
5. 保有契約年換算保険料の第三分野部分構成比の前年度末比欄は、対前年度末増減を表示しています。

2. 収益の状況

(1) 基礎利益

基礎利益は 111 億円となりました。内訳は以下のとおりです。

① 費差損益

費差損益は、保有契約の減少に伴い、前年同期に比べ 10 億円減少しました。

② 危険差損益

危険差損益は、保有契約の減少に伴い、前年同期に比べ 30 億円減少しました。

③ 逆ざや額

逆ざや額は、高予定利率契約の満期等による予定利息の減少により、前年同期に比べ 13 億円改善しました。

基礎利益の状況

区分	平成 26 年度上半期		平成 25 年度上半期
		対前年同期増減	
基礎利益	111 億円	△27 億円	139 億円
費差損益	65 億円	△10 億円	76 億円
危険差損益	405 億円	△30 億円	436 億円
逆ざや額	△359 億円	+13 億円	△373 億円

(2) 経常利益・中間純剰余

経常利益は 240 億円、中間純剰余は 174 億円となりました。

経常利益・中間純剰余の状況

区分	平成 26 年度上半期		平成 25 年度上半期
		対前年同期増減	
経常利益	240 億円	△36 億円	277 億円
中間純剰余	174 億円	△76 億円	250 億円

3. 財務の状況

(1) 有価証券の含み損益

有価証券全体では、2,959億円の含み益となりました。国内株式は734億円の含み益、国内債券は1,979億円の含み益となりました。

有価証券の含み損益の状況【一般勘定】(有価証券のうち時価のあるもの)

区分	平成26年度上半期末		平成25年度末
		対前年度末増減	
有価証券全体	2,959億円	+749億円	2,209億円
うち国内株式	734億円	+190億円	544億円
うち国内債券	1,979億円	+435億円	1,544億円
うち外国証券	178億円	+123億円	54億円
うちその他の証券	26億円	△3億円	29億円

(2) ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額

ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ40.1ポイント上昇し、609.1%となりました。実質純資産額は、前年度末に比べ、900億円増加し、7,043億円となりました。

ソルベンシー・マージン比率の状況

区分	平成26年度上半期末		平成25年度末
		対前年度末増減	
ソルベンシー・マージン比率	609.1%	+40.1%	569.0%

実質純資産額の状況

区分	平成26年度上半期末		平成25年度末
		対前年度末増減	
実質純資産額	7,043億円	+900億円	6,143億円

以上